

品質を維持し裂果を抑制するミニトマトの収穫適期は7分着色

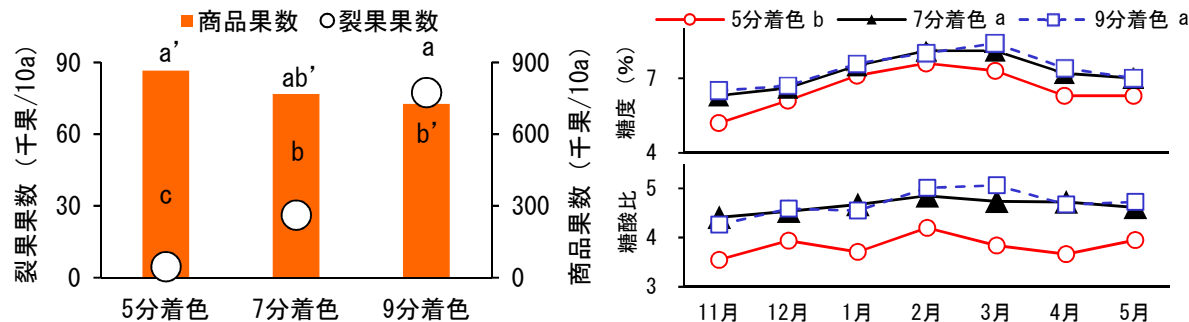
ミニトマトにおいて7分着色で収穫することで、9分着色と収穫後5日目の果実品質は同等であり、裂果の発生を軽減できる

背景・目的

- ・ミニトマト産地において、裂果による品質低下及び減収が大きな問題
- ・ミニトマトの裂果は果実体内の急激な水分変化、空气中湿度の上昇、収穫遅れにより発生
- ・収穫時の着色程度の違いが裂果発生、収量及び果実品質に及ぼす影響を検討

成果の内容

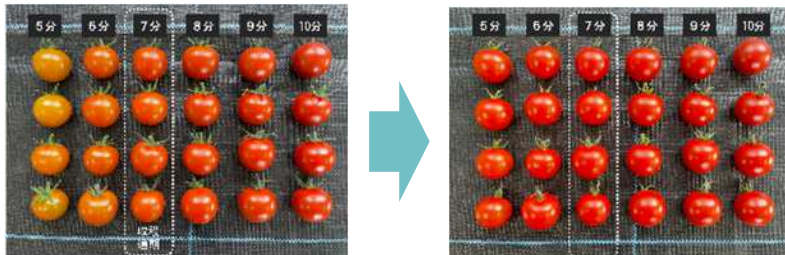
- ・裂果果数は収穫時の着色程度が大きいほど多い
- ・商品果数は収穫時の着色程度が小さいほど多い
- ・収穫後5日目における7分着色の果実品質は9分着色と同等
- ・5分着色の果実品質は7分着色及び9分着色に比べて劣る



注) 異なるアルファベット間はTukeyのHSD検定により5%水準で有意差あり

注1) 異なるアルファベット間はTukeyのHSD検定により5%水準で有意差あり

注2) 収穫後5日目に調査



着色程度と果皮色 (左: 収穫直後, 右: 収穫後5日目)

注) 品種は「TY千果」及び「小鈴クイーン」を使用した。品種の違いで裂果、収量及び果実品質への影響が認められなかったため2品種の平均値で示した。

期待される効果

○ミニトマト裂果発生の軽減



○商品率の向上による生産者の所得向上

○普及対象・範囲 ミニトマト生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室